

2011 年 6 月 21 日

## Sail for Smiles 2nd Plan

### 宮城県気仙沼の高校生セーラーへの支援・速報

Sail for Smiles 2nd Plan<気仙沼の高校生セーラーへの支援>として、6 月 19 日（日）にセーリンググッズを届けに行ってきました。

今回の支援内容は以下となっています。

**支援対象：気仙沼高校ヨット部、気仙沼向洋高校ヨット部**

**支援用品：**

- 1.キャップ=20 個<Gill（株式会社フォーチュン）より無償提供>
- 2.ラッシュガード=18 着
- 3.グローブ=17 個
- 4.アクアバッグ=17 個
- 5.パドジャケ（スモック）=17 着
- 6.トラウザース=女子用 4 着
- 7.ブーツ=21 足
- 8.ハイキングパンツ=1 着
- 9.スキフパンツ=1 着
- 10.トートバッグ=18 個<NAMI より無償提供>
- 11.Sail for Smiles グッズ=T シャツ 20 着、ステッカー、フラッグ

今回の支援に用品を無償提供いただいた各社および用品購入にあたり低価格で販売いただいた各社にこの場をお借りして、心より御礼申し上げます。

6月19日（日）朝8時、まず気仙沼高校を来訪しました。つい最近顧問に就任された芳賀先生と家族と離れ一人で気仙沼高校の避難所に暮らす三浦主将が出迎えてくれました。三浦主将は、昨年国体にも出場した有力選手でもあります。前記グッズを渡し、現状の問題点などを聞き入りました。震災後に入学した新入生から新たに2名の女子が入部したといううれしいニュースもありました。

引き続き、気仙沼向洋高校ヨット部との待ち合わせ場所である気仙沼市総合体育館の避難所に向かいました。ここでは千坂顧問と廣木顧問名に17名の全ヨット部員が出迎えてくれました。気仙沼向洋高校は学校そのものが被災し、学生は近隣3校に分かれて授業を受けているということでした。記念撮影での高校生の表表情は硬いですが、帽子を選び合っている時の笑顔を見て少しばかりほっとした次第です。

2校ともヨット部の練習は片道3時間あまりをかけて松島まで出向く必要があるということです。それ以外にも、ヨット部の活動が続けるにはいくつもの問題点があり、苦労はつきないことを痛感しました。

気仙沼向洋高校の若き指導者、廣木先生が「気仙沼でヨットができるまで僕は気仙沼を離れない！」と言った言葉に、頭が下がる思いでいっぱいになりました。

## 更なる支援のお願い

今回はインターハイ予選が間近に迫っている事もあり、まず先に支援品を調達して届けました。支援用品購入にあたっての費用は寄付やグッズ販売の収益を当てていますが、現時点ではまだまだ足りていません。

また、今回届けた用品以外にも以下のような用品の要望が出ています。

1. スピンポール
2. バングシステム用ブロック
3. 風見
4. スピンリペア
5. アジャスター用クリート
6. トラピース用リング
7. シャックル
8. リングピン
9. ピン
10. コンパス

引き続き、この支援に賛同いただける方の寄付や用品寄贈を募集しています。また、グッズを購入いただく事でも支援が行えます。

寄付金の振込先：三菱東京 UFJ 銀行 金沢文庫支店 普通口座 0050384

口座名 Sail for Smiles 実行委員会 猪上真教

グッズ販売の詳細：ホームページをご覧ください。 <http://sailforsmiles.jp/2-2.html>

総合体育館を後にし、廣木顧問に案内され2校の活動拠点であったハーバーと被災した向洋高校を見てきました。テレビ映像などで繰り返し見ていた状況ではありますが、現地を目の当たりにして現実的に起こったことがうまく理解できないほどにひどい状態であることを感じました。

午後からは南三陸町を経由して、塩竈にて宮城外洋帆走協会の方々ともミーティングを行いました。宮城外洋帆走協会の副理事長である餅氏は自身の艇であるミスティック X・Farr40 オーナーで今年のジャパンカップに参戦すべく、艇に準備を始めるとの事でした。

(次ページに今回の支援の状況写真掲載)



気仙沼高校 三浦主将に用品一式を渡す。



気仙沼高校 芳賀顧問・三浦主将・猪上 SFS 代表で記念撮影。





向洋高校ヨット部と記念撮影。場所は避難所となっている気仙沼市総合体育館。  
手前列向かって左端が千坂顧問、右端でフラッグを持っているのが廣木顧問。



帽子やパドジャケのサイズや色を選ぶ向洋高校ヨット部員。